



子どもたちにとって、わかりやすいかかわり方とは？

私たち大人が、子どもたちにとって“わかりやすく”かかわっていくことは、お子さんの安心や見通しの持ちやすさにつながります。しかし、“わかりやすい”というキーワードは、受け取る大人によってさまざまです。ゆっくり短く話せばいい？視覚的なヒントを添えてみては？など、いろいろな考え方がありますが、ここではセンターの療育のさまざまな場面で重視しているキーワードを1つご紹介します。

始点(はじまり)と終点(おわり)を意識する

・物事や情報には、始点と終点があります。私たちは、日常何気ない会話の中でも、それほど始点と終点を意識せずになんとなく、連続した情報をうまく受け取り、その中で大事なことを抽出することができます。しかし、子どもたちは、この始点と終点をうまく自分でキャッチしにくい＝“外界のわかりにくさ”につながっていることがあります。

・始点と終点がわかるようになると、意欲的に活動に向かったり、目的をもって動くことができるようになるため、センターではさまざまなレベルで始点－終点は意図的にわかりやすく伝えられています。

始点－終点のさまざまなレベル

身体で伝える始点－終点

くすぐり遊びで、「いくよ！」－「はい、おわり」と始点－終点のメリハリをつけて遊ぶ。
トランポリンやブランコも、いつまでも揺らすではなく、歌や数に合わせてわかりやすく終わる。
(もし、まだ遊びたいときは、もう1回始点から…)

音で伝える始点－終点

基本的に歌には、必ず始まりと終わりがあるので、わかりやすい活動です。歌いかける際は、歌の終わりで必ず静寂をつくるなど、少し意識することでずいぶん終点がわかりやすくなります。

目で見て伝える始点－終点

机に教材を1つ置く、これも今から学習が始まるサインになります。
ことばでの指示を減らし、<サッと始点を示し、終点のボックスを出してきちんと終わる>ことが大切です。
集団の活動も、椅子が始点でベンチが終点など、動きの始まりと終わりもわかりやすく伝えるようにしています。



ことばで伝える始点－終点

「はじめるよ」「おわったよ(上手ね)」とことばで伝えることは当たり前のようですが、大事です。学校の授業でわかりにくいといわれる原因の1つに「授業の始まりと終わりが生徒にしっかり伝わっていない」ことが指摘されています。

ご家庭でもいろいろなことを連続して指示せず、始まりと終わりをわかりやすくする、しっかり伝えてみる、ということをお心にかけてみて下さい。